

## 2年職場体験を終えて（アンケートより）

地域の事業所の皆様のご協力のもと、本年度も職場体験学習「生きチャレ」を実施いたしました。生徒たちは、学校では得られない様々な経験を通して、働くことの意義や社会の厳しさ、そして人と関わることの大切さを実感することができました。本号では、事前・事後アンケートから見えてきた、生徒一人ひとりの確かな「変容」と成長の様子についてお伝えいたします。

本年度実施した職場体験学習「生きチャレ」では、生徒一人ひとりに大きな成長が見られました。事前アンケートでは、「仕事の大変さを知りたい」「将来に活かしたい」といった期待や意欲が多く語られていましたが、体験後には、その思いが実感を伴った理解へと大きく変化していました。

実際に体験を終えた生徒からは、「想像以上に仕事は大変だった」「責任の重さを感じた」といった声が多く聞かれ、働くことへの認識が、表面的な理解から現実的で具体的なものへと深まったことが分かります。また、「仕事は多くの人の支えによって成り立っている」といった気付きもあり、社会の仕組みや役割についても視野が広がりました。さらに、行動面においても大きな変化が見られました。体験前は「時間を守る」「迷惑をかけない」といった目標設定が中心でしたが、体験後には「礼儀やマナーが身に付いた」「責任をもって行動することの大切さが分かった」と、自らの行動を振り返る記述が多く見られました。単に意識するだけでなく、実際の場面で行動に移すことができたことは、大きな成果と言えます。

また、生徒の主体性の高まりも顕著でした。体験前の「積極的に取り組みたい」という思いは、体験後には「自分から仕事を見つけて行動できた」「周りを見て働くことの大切さが分かった」といった具体的な実践へとつながっています。一方で、「うまくできなかった」という振り返りも見られ、自らの課題に気付く姿も見られました。これらは、主体的に学ぶ姿勢が育まれている証といえます。

人との関わりにおいても成長が見られました。「ありがとうと言ってもらえて嬉しかった」「初めはうまく話せなかったが徐々に対応できるようになった」といった記述から、コミュニケーションの難しさと喜びの両方を実感したことがうかがえます。相手に応じた接し方の大切さを学ぶことができたことは、生徒にとって大きな財産となりました。加えて、将来に対する意識もより具体的になりました。体験後には、「将来の夢が見つかった」「自分に向いていることが分かった」といった声が多く見られ、自分自身を見つめ直す貴重な機会となったことが分かります。単なる体験にとどまらず、進路について主体的に考える契機となりました。

さらに印象的であったのは、価値観の変化です。「大人はすごいと感じた」「多くの人に支えられていると分かった」「人に喜んでもらえることにやりがいを感じた」といった記述から、他者への感謝や社会への貢献意識が育っていることが読み取れます。働くことを通して、人と人とのつながりの中で生きることを実感できたことは、今回の大きな成果の一つです。

このように、職場体験を通して生徒は、働くことへの理解を深めるだけでなく、社会性や責任感、主体性、そして他者を思いやる心を大きく育むことができました。何より、自らの経験を振り返り、自分の言葉で成長を語るができている点に、確かな学びの成果が表れています。今後は、この体験で得た学びを日々の学校生活や将来の進路選択へとつなげ、さらに成長していくことを期待しています。

## どうして時間はこんなに早く過ぎるの？

気がついたらもうこんな時期？と感じたことはないでしょうか。ついこの前、新しい学年が始まったと思っていたのに、あっという間に日々が過ぎていく。そんな感覚を覚える人も多いのではないのでしょうか。この「時間が早く過ぎるように感じる」理由について考えるヒントになるのが、「ジャンナーの法則」という考え方です。

ジャンナーの法則とは、年齢を重ねるほど時間が短く感じられるというものです。例えば、10歳の人にとっての1年は人生の10分の1ですが、15歳の人にとっては15分の1となります。同じ1年であっても、人生に占める割合が小さくなるほど、短く感じられるのです。つまり、中学生である皆さんにとっても、時間は思っている以上に速く過ぎているといえるのです。さらに、人が時間をどのように感じるかには、「慣れ」も大きく関係しています。初めてのクラス、初めての部活動、新しい友達との出会いなど、「初めて」の経験が多いとき、人は一日一日を強く印象に残します。その結果、時間を長く感じる傾向があります。一方で、同じような毎日を繰り返していると、新鮮さが薄れ、振り返ったときに「あっという間だった」と感じるようになります。

では、どうすれば日々の時間をより大切に感じながら過ごすことができるのでしょうか。その一つの答えは、「新しいことに挑戦すること」です。これまでやったことのないことに取り組んだり、少し難しいことに挑戦したりすることで、毎日の中に新鮮な発見が生まれます。そうした経験の積み重ねが、時間を「濃い」ものにし、充実した日々へとつながっていきます。

時間は誰にとっても同じ速さで流れています。しかし、その感じ方や価値は、自分の過ごし方によって大きく変わります。中学校で過ごす日々は、長いようでいて決して長くはありません。だからこそ、一日一日を大切に、自分なりの充実した時間を積み重ねてほしいと思います。